論　文　ニダバ (*Nidaba*) 37(2008), 143-152

チェコ語の小詞の形式と機能構造

―日本語との平行性および中心vs.周辺理論を中心として―

本城二郎

0．序論

本論は、チェコ語の小詞の形式構造と機能（ＦＳＰ）構造を探ることを目的とする。

1．文の階層構造と小詞の位置：第３統語面の設定

述語動詞の文法・統語範疇とそれの意味拡張子（助動詞など）との連結・呼応関係は、少なくとも３つの言語（階）層と統語面を反映し、形式的にも伝達機能的にも、ある種の類型的特徴を示す。そのうち、周辺的な言語（階）層を形成するのが小詞要素である。

1．1．総合的２層構造（Cz.)と膠着的４層構造（J.)

文の構造は４つの言語（階）層から構成されている。膠着タイプ形態法を持つ日本語文は、述語が中心の入れ子型重層構造をなす。構造の核→中心→周辺の観点から、描叙→判断→提出→表出からなる階層化が、さらに格（関与者）構造→認定構造→意向（提示・主題）構造→φ構造（聞き手標識付与のみ）からなる主要構造が、それぞれ設定可能である。**チェコ語**は総合屈折タイプ形態法を持ち、述語動詞語尾に特有な異意義混交性により、層における融合が存在するものの、定動詞人称・数語尾の義務的付加および（広義の）法小詞の自由・選択性から、混合的３層構造つまり**総合的２層構造＋分析的１層構造**により特徴づけられる。膠着タイプの**日本語**は、述語語尾における重層構造つまり－ガ成分・－ハ成分や陳述副詞・応答詞・感嘆詞と文末要素である助動詞・終助詞との義務的呼応関係から、**膠着的４層構造**により特徴づけられる。

1．2．統語面と小詞の位置

文構造の核→中心→周辺解釈から、層固有の主要構造に対応する３つの統語面が設定可能となる。層の中心にある述語つまり動詞・形容詞（＋助動詞など）が文中の他の要素に対して持つ支配・呼応関係から、**第１統語面**：文の核構造の面（文形式的必須項による**関与者構造**）と**第２統語面**：中心構造の面（文意味的必須項による**主語－述語認定構造**）と**第３統語面**[*1]：周辺構造（発話文的必須項による**主題・意向構造**および**自／他表出構造**）の３種である。個別言語的には、第１・第２統語面は、チェコ語・日本語とも明示的で、違いは周辺構造を構成する第３統語面の確定性にある。チェコ語は小詞等に代表される自由・選択要素により分析的に、日本語は（法小詞としての）陳述副詞・

応答詞・感嘆詞等のカカリ成分＋（法小詞としての）不変化助動詞・終助詞等のウケ要素により膠着的に、それぞれ第３統語面を表示している。

２．ＦＳＰの基本構造と概念記法：Th－Rh関係と中心－周辺関係

ＦＳＰとは、発話文のTh(ﾃｰﾏ)－Tr(衒)－Rh(ﾚｰﾏ)分割である。それは、形式的には語順や小詞付加や（動詞の）意味構造・関係や文脈・ＩＣにより実現される。多くの場合、Th要素およびRh要素は細分化され、固有の情報価値を担い、文の伝達が達成される。情報価値を**CD**、それの大小の度合いを**CD度**、最少のCD度要素を**Th**、最大のCD度要素を**Rh**、（２伝達単位を持つ動詞が表示する）中間のCD度要素を**Tr**とし、そのうち（動詞の人称・数・性語尾が実現する）Th－Rh連結役割および（動詞の時制・極性・モダリティ表示子が実現する）文脈連結役割を担う要素を**TrPr(Tr-Proper)**、（陳述副詞や接続詞などが実現する） 同じく文脈連結役割を担う傾向にある要素を**TrPro(TrPr-oriented)**とし、（無標の伝達を示す）CD度漸進的上昇つまりTh-Tr-Rh語順を**CD基本配列**とし、発話文の構成原理を体系化したのがプラハ言語学派戦後メンバーを代表するJ. FirbasのＦＳＰ理論である。この理論は、既に定説化していた中心（Ｃ）vs.周辺（Ｐ）理論*2を厳密に適用したもので、その有効性は多くの言語分析において実証されている。以下に、ＦＳＰ要素とその基本配列を列挙し、ＦＳＰ基本構造を概観する。

CD基本配列　⇨ThPr<ThPro<Th<DhTho<DhTh　< TrPr<TrPro<Tr　< Rh<RhPr

Th要素　　Tr要素　　Rh-要素

Dnes náš premiér *snad* navštíví **Ameriku.** ☜*4 ﾁｪｺ語無標議語順:CD基本配列Th-Tr-Rh

ThPr　DTh　+2*3;TrPr +1*3;Tr　Rh

（*恐らく*、今日　首相は　**米国を**　訪問しーます。）☜ 日本語無標語順Th-Rh-Tr

+2;TrPro ThPr DTh　Rh　+1;Tr　+2;TrPr

ＦＳＰの概念記法：

下記のＦＳＰ概念記法のモデルを含め、以後の全ての分析例はこれに従う。

文要素

連結の種類 ; FSP役割

例：　*Možná*　(on)　přijd-e　**zítra.**

+2;TrPro　Th　+1;Tr　Rh*5

M*6:ﾓﾀﾞﾘﾃｨ要素　T°*6:時制要素

（*多分*、　彼は　**明日**　来る－*かも知れない*。）

+2;TrPro M*6 DTh　Rh　+1:Tr +2;TrPr M+T°*6

３．チェコ語の小詞の形式構造と機能（ＦＳＰ）構造

現代チェコ語の小詞（化要素）は、発話文に付加・挿入され、多様な文法形式を持った機能要素である。その形式構造は、様々な文法化を通じて慣用化したため、接辞・語・句・文など、品詞は多様である。その機能（ＦＳＰ）構造は、単一のＦＳＰ化を通じ

て固定化したため、TrPr要素や被修飾語との同一要素など、ＦＳＰ要素は均一的である。

３．１．チェコ語の小詞の諸タイプ

チェコ語の小詞は、形式的には、前置詞と接続詞を除く不変化詞（品詞レベル）で、基本発話を構成する自立意義素に対してそれに従属する共起要素（統語レベル）であり、副詞や応答詞、それに多様な挿入句・語や間投詞等から成り立っている。その発話機能および意味特徴から、次の７種類に大別可能である。

法小詞、強調小詞、焦点（フォーカス）小詞、修正小詞、
応答小詞、否定小詞、願望小詞

これらは、本来的な機能語（句）であることから、いわゆる**単純小詞**と呼ばれる。それに加え、現代チェコ語には、主節の諸要素（特に述語）の短縮・省略というプロセスの結果、小詞役割を獲得した要素も存在し、未だ周辺的現象ながら、主に口語において頻用されることから、それらは**小詞化要素**と呼ばれている。本節では、最初に、単純小詞の名称・定義・主要構成メンバー・具体的使用例を順に列挙し、その全体的特徴を明らかにする（３．２）。次に、小詞化要素については、文法形式・特徴・構成メンバー・具体例の順に提示することにより、そのタイプ分けおよび単純小詞との機能的平行性を探る（３．３）。なお、単純小詞および小詞化要素は、その具体的使用および機能が、多かれ少なかれ、他の発話手段や発話内容や文脈との関係において決定され、広義の話者モダリティ表示子と見なし得ることから、以下の記述においては、特に区別の必要のない限り、法小詞という名称は広義の意味で用いる。

３．２．単純小詞のタイプ的特徴

現代チェコ語に本来的（つまり中心的）な小詞のグループである。その発話機能および形式的特徴から、次の７つのタイプに分類される。

［名称］［定義］

法小詞：発話内容の確実性を伝える小詞　☜ 極性（肯定/否定）の数量化子でFSPでは P⁻ カテゴリーで表示

［メンバー］asi(多分), snad(恐らく)、nejspíš/možná (たぶん、恐らく)、jistě/zajisté(確かに、きっと)、

［具体例］To je nejspíš omyl.(それは、多分誤りでしょう。)(=To musí být omyl/To bude omyl.)

強調小詞：形容詞・副詞・動詞が表示する属性の程度を強弱により限定する小詞

☜ 被修飾要素の意味内容の程度限定子でFSPでは非カテゴリー要素

/程度強化/:velmi(とても), dost(十分)　/程度弱化/:málo/trochu/poněkud(少し、ちょっと)

velmi starý muž(とても年配の男), Byl tím málo nadšený.(彼は、それに少ししか熱中していない。)

焦点（フォーカス）小詞：発話の有効性を制限したり拡充したりすることにより、発話中のある一定の要素を強調する小詞（なお、už/ještě等の時制小詞も、時間的な意味における話者のある種の期待を表わすことから、焦点小詞と見なされる）

☜ 極性（肯定/否定）の拡充子でFSPでは P⁺ カテゴリーで表示

/制限的小詞/: jen(om)(唯一の、単に<v jednom kuse(一つで)<jeden(一つの)<j-ed/小詞/-inъ(単独の),

právě(正に), především(とりわけ)<přede(前に)-vším(全て), a(les)poň(少なくとも)

/拡充的小詞/: také(~もまた)<tak(ov)ý(そのような), ani(~もない), též(~も)<týž(同じ)

Na koncert přišla jen MOJE matka.(コンサートに来た母は私の母だけ)

jen moje MATKA.(...私の親族では母だけ)

JENOM moje matka.(...私の知人では母以外なし)

/時制小詞/: už(すでに、もう), teprv(e)(ようやく、はじめて), ještě(いまだ)

Z lázni přijela už ve čtvrtek.(彼女は、木曜日にもう温泉から帰っていた。-それ以後の予定だったのに-)

修正小詞：本来的な品詞・小詞が担う発話伝達機能でなく、イントネーションや動詞相等、語彙的手段や文脈と共に、修正された別の異なる発話機能を表示する小詞

☜ 獲得した発話機能によりFSPカテゴリーは様々で、聞き手訴えなら M2⁻、確実性なら P⁻、評価なら M⁻、意味内容限定なら非カゴリー要素となる。

ale(しかし→~だよ!), copak(一体何→多分/恐らく), jen(ただ~だけ→~だよ!), snad(多分→~だよ!), tedy/teda(それゆえ→確かに~だよ!), vlastně(実際は), však(しかし→確かに/実に!)

To je ale balón!(それは、気球なんだよ!-大きさの驚き-) To je teda/snad balón!(-形/存在の驚き-)

応答小詞：確認疑問文に対して否定的または肯定的に答えることが可能な小詞（なお、dobře(結構だ、よろしい)//prosím(お願いします、どうぞ)/není zač(どういたしまして)/děkuju/díky(ありがたい)/dík(どうもありがとう)等も文相当語句であることから、応答小詞と見なされる）

☜ 極性(肯定/否定)の単純表示子+聞き手への極性の訴えの表示子であることから、FSPでは複合 P⁰+ M2⁻ カテゴリーで表示

ano(はい), jo/口語的/(はい、ああ)<ja/ドイツ語/、no/口語的/(はい、ああ)<nu/勧告の間投詞/, ne(いいえ)

Půjdeš tam dneška?(今日あちらへ行くのか?) - Ano.(はい)/Ne.(いいえ。)

/+法小詞/: - Ovšem (že ano).(もちろん。)/Určitě ne.(絶対にない。)

否定小詞：文部分を否定する小詞（文否定は、動詞接頭辞ne-の付加で表示される）

☜ 否定(極性)の表示子であることから、FSPでは P⁰ カテゴリーで表示

ne/口語/(~ない), nikoli/文語/(~ない)<ni/否定辞/-koli/一般化小詞/

Zaujalo ji nikoli(/ne) jeho postavení.(彼女の関心を引きつけたのは、彼の地位ではなかった。)

Nikdy jsem nikomu nic nesliboval.(僕は、決して誰にも何も約束しなかった。)

願望小詞：常に文頭に置かれ、願望文を構成する小詞（なお、独立従属接続詞のať/nechť/aby/kdybyも、願望・訴えを表示することから、願望小詞と見なされる）

☜ 発話内容への話者の願望・訴えの表示子であることから、FSPでは M1⁺+ M2⁻ で表示

kéž/文語/(~でさえあればなあ!)<ký(誰)-že/小詞/

/願望/: Kéž by přišel/Kéž by přišel!(彼が来ればなあ!)

/不安/: Aby tak nepřišel!(彼が来なかったとはなあ!)

3．3．小詞化要素のタイプ的特徴

現代チェコ語において新しく発達した二次的（つまり周辺的）な小詞のグループである。主節要素の小詞化の際、形式面における修正（つまり省略）と意味内容面における変更・弱化という、２つのプロセスが考えられることから、次の２類に大別される。

i．主節形式短縮タイプ：主節の諸要素（特に述語）の短縮による小詞化要素

ii．主節意味変更タイプ：主節の諸要素の意味変更・弱化による小詞化要素

i．〈主節形式短縮タイプ〉

主節中の残存要素が小詞役割を獲得するタイプで、発話文中で可変語順位置を許容する（myslím等）一部のものを除き、意味内容の点で、（狭義の単純）法小詞に最も近く、一部は修正小詞や願望小詞に近い。

[文法形式]　　[特徴]

平叙主節述語短縮形＋(že)~：発話内容への評価や確信（確実）性を伝える小詞化要素

[メンバー] Štěstí(,) že~/評価/(幸運にも)<Je štěstí, že~.(~とは幸運だ.)

Myslím(,) že~/myslím/確実性/(確かに~と思う、確かに)

[具体例]：Štěstí(,) že jste přišel.(運良く、あなたが来たんだよ.)

Myslím(,) že bude pršet/Myslím bude pršet/Bude myslím pršet.

(きっと、雨が降りますよ.)

疑問主節述語短縮形＋že~：聞き手への驚きの訴えを伝える小詞化要素

Jak to že~?/驚きの喚情性/(~とはどういう訳か?)<Jak 手段 to 出来事, že~?

Jak to že netančíš?(君が踊らないのはどういう訳だ?)

主節述語短縮形＋aby~：聞き手への提案・願望・不安・抗議の訴えを伝える小詞化要素

Co aby(chom)?/提案/(~するようにということなのか?)<Co 手段(,) aby(chom)~?

Co abychom si dali kávu?(我々がコーヒーを注文するようにということなのか?)

主節述語短縮形＋kdyby/když~：聞き手への訴えや警告の訴えを伝える小詞化要素

Co kdybys~!?/警告/(~したらどうなるのかね!?)　<Co 時 行為, kdybys~?

Co kdyby sis zlomil nohu!(君が足を折ったらどうなるのかね!?)

ii．〈主節意味変更タイプ〉

形式面での変更はなく、専ら意味内容面での変更結果が（確実性・評価・訴え・願望・抗議等の）多様な伝達機能を獲得するタイプで、慣用化される文法形式の多様さからも、現代チェコ語口語体系の中では比較的生産的な小詞グループと見なされる。

[文法形式]　　[特徴]

命令主節変更形＋že~：聞き手への確認の訴えを伝える小詞化要素

[メンバー] To si piš, že~!/100%近い確信/(確かに~だ/よ!<~ということを銘記しなさい!)≒Určitě

To si piš, že mu to řeknu.(確かに僕は彼にそう言うよ.)

平叙主節変更形＋že~：発話内容への確実性や評価を伝える小詞化要素

To bych řekl, že~.(~と言ってもいいでしょう!もちろん~します!<~と仮に言うが.)

>/挿入句/řekl bych(仮に言えば、多分、言ってみれば、例えば)

To bych řekl, že to není pravda.(もちろん、それは本当ではありません.)

平叙主節変更形＋aby~：聞き手への警告・恐喝の訴えを伝える小詞化要素

Já ti dám, abys ~./警告/(~すると承知しないぞ！<~するとひどく困らせてやる。)

Já ti dám, abys zlobil babičku.(お祖母さんを怒らせたら承知しないぞ。)

>/不定詞化/>Já ti dám zlobit babičku.

命令主節変更形＋aby~：聞き手への訴えや発話内容への願望を伝える小詞化要素

Koukej, aby~!/願望訴え/(~するよう気を付けなさい！<~するよう凝視しなさい！)

Koukej, aby se ta okna zase leskla.(その窓が再びぴかぴかになるようにしなさい。)

>/不定詞化/>Koukej se ta okna zase lesknout.

命令主節変更形＋~(平叙文)：聞き手への抗議・拒否の訴えを伝える小詞化要素

Podívej(,) ~./拒否訴え/(ほら/いいか~よ。<ご覧、~。)

Podívej(,) nemáme čas.(いいか、我々は時間がないんだよ。)

条件主節変更形＋aby~!：聞き手への抗議・反論の訴えを伝える小詞化要素

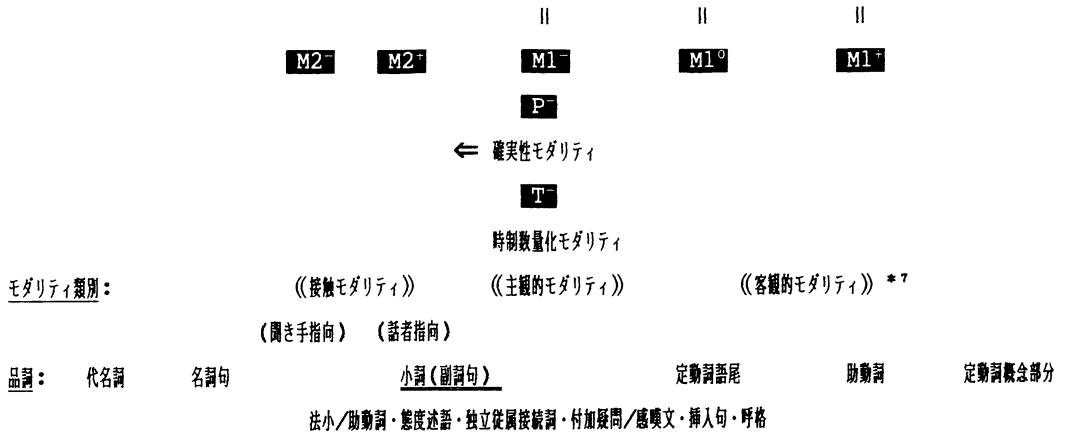
To bych si vyprosil, aby~!/抗議/(~なんてまっぴらだよ！<~でないようにしてほしい。)

To bych si vyprosil, aby se tady opisovalo!(ここで盗作があるなんてまっぴらだよ！)

３．４．小詞の機能（ＦＳＰ）構造

小詞および小詞化要素のＦＳＰ機能を検証する際には、話者態度表示子としてのモダリティ範疇がＦＳＰ構造内においていかなる体系を持つのか、さらに個別モダリティが体系内においてどの位置を占めるのか（つまり中心○／周辺＋／周辺－の区別）を確認する必要がある。理論上は、TrPr要素を表示するTME（時制・法表示子）の内、M（つまりモダリティ範疇）は、他の範疇（とくにPつまり極性範疇）と共に、ＦＳＰ階層上において、（左は）DTh（右は）Trと隣接し、体系間のある種の連続性を保っている。具体的には、義務的モダリティ要素が中心を占め（M°）、比較的安定し、形式的にもTrPr要素に特徴的な定動詞語尾や助動詞への傾向を示している。他方、左周辺の評価モダリティ（M^{-}）と左周辺の確実性モダリティ（P^{-}）は、T（つまり時制範疇）の左周辺のモダリティの一種と見なされる時制数量化モダリティ（T^{-}）とともに、形式的にも、隣接するDTh要素またはTh要素に特徴的な小詞および副詞（句）や名詞（句）への傾向を示す。これらは、主観的モダリティと呼ばれる。また、右周辺の自由モダリティ（M^{+}）と同じく一部右周辺のモダリティと見なされる極性拡充化モダリティ（P^{+}）とともに、形式的には、隣接Tr要素に特徴的な定動詞概念部分（または 全体）への傾向を示している。この際、話者の聞き手への訴えや話者自身への訴えを表示する接触モダリティもM（モダリティ範疇）の一種と見なされることから、M1（主観的・客観的モダリティ）とM2（接触モダリティ）に、さらに接触モダリティは聞き手指向モダリティ（$M2^{-}$）と話者指向モダリティ（$M2^{+}$）に、細分化可能となる。

FSP要素:	ThPr	Th	DTh	TrPr(o)	TrPr	Tr	Rh
モダリティ範疇:				M^{-}	M°	M^{+}	
				⇐ 評価モダリティ	義務的モダリティ	自由モダリティ ⇒*7	



3．5．中心的小詞（法小詞と独立従属接続詞その他）の機能構造

以下に、現代チェコ語文法体系において最も本来的（中心的）な法小詞と口語体系において（すでに頻用されていることから）すでに慣用化した独立従属接続詞と法小詞化要素等について、その機能（ＦＳＰ）構造の観察を試みる。

①．態度動詞派生の法小詞：50% 以上の確実性モダリティ（P⁻）の表示

Je to *myslím*[8] *přesně* tak. ＜/小詞化/＜Myslím, že ~

+1;TrPr +2;TrPro P⁻ （私は～と思う）

思うに、*正に*そうです（ね）＜～と思います。 ☜ 態度述語＞法小詞一終助詞の呼応

②．法小詞プロパー：100%近くの確実性モダリティ（P⁻）の表示

Jistě se na to pamatujete.

+2;TrPro P⁻ +;Tr-TrPr

（*きっと* 君は、それを覚えている－*はずだ*。） ☜ 法小詞一法助詞の呼応

③．独立従属接続詞：100%近くの確実性モダリティ（P⁻+M2⁺）の表示

že zase zaspal!＜Že zase zaspal, že zase zaspal.

+2;TrPro M2⁺ +;Tr-TrPr （私には～(の)が確かだ） P⁻ ☜ 話者指向モダリティ（M2⁺）の獲得

（彼は、再び寝過した－*のだ*！）

④．願望小詞（自由モダリティの一種）による願望モダリティ（M1⁺+M2⁺）の表示

Kdyby/Kéž by vás poslechl!

+2;TrPro M1⁺+M2⁺ +;Tr-TrPr ☜ 客観的モダリティ（願望）（M1⁺）+話者指向モダリティ（M2⁺）の複合モダリティ

（彼があなたの言うことを聞い－*てさえくれれば*（*なあ*）！） ☜ 授与動詞の強調形+間投助詞

⑤．副詞派生の法小詞化要素による評価モダリティ（M1⁻）の表示

Už jsi *bohudík* doma. ＜Bohudík jsi už doma. ＜/副詞化/＜Bohudík žes už doma.

+2;TrPro M1⁻ （～で幸運だ）

（*幸いにも*、お前はもう家に戻っている（－*ん*/－*のだ*）（*な*）！）

⑥．独立従属接続詞による話者指向の喚情モダリティ（M2⁺）の表示

JEN KDYŽ[9] už jsi DOMA! <[illegible] (私は～でさえあれば満足だ), jen když už jsi doma.

+2;TrPro M2⁺ +;Tr-TrPr M1⁺ ☜ 客観的モダリティ(嗜好)の獲得

（お前がもう**家に戻って**い（*さえす*）*れば*－*なあ*！）☜ 文末間投助詞の付加

M2⁻ ☜ 聞き手指向モダリティ(確認)の付加

3．6．周辺的小詞（自由与格／付加疑問／挿入句・呼格）の機能構造

以下に、個別言語的分布を示す周辺的小詞とそのＦＳＰ機能を検証する。

⑦．聞き手への注意喚起表出：法小詞機能の２人称自由与格（M2⁻）による喚情文

To je *vám* chytrák. ☜ vám(君たちに!/よ!) < [illegible] vám(君たちに言うが/本当に)

+1;Tr +2;DTho M2⁻ +2;DTho</+機能の残存付与/<+1 +2;DTh₀ M2⁻

（あいつは、*本当に*利口な奴－だ－*よ*。）

⑪．聞き手への確認・同意の指向：文末複合小詞（M2⁻）による付加疑問文

Nezmínil se o tom, *že ne?*

+2;Tr-TrPr T⁰ +2;TrPr M2⁻

（彼は、それにふれなかっ－た－*ね*。）

⑬．挿入句／呼格：発話内容の確実性（P⁻）＋聞き手指向の話者喚情（M2⁻）表示

Petr si s tím nedělal žádné starosti.

DTh ThPr Th +1;Tr Rh

挿入句： *, jak všichni dobře víme/ jak víme/ víme,* ☜ 1人称+確実性:+2(話者+確実性)

+2(話者+確実性):TrPro P⁻+M2⁻

挿入語： (,)*pravda*(,)/*snad*/*asi*/*jistě* P⁻ ☜ 法小詞:+2(確実性)

už/*zase*/*ještě*/*ale*/*přece* T⁻ ☜ 時間副詞:+2(時+確実性)

+2(確実性);TrPro

呼格（的）： *, Pavle/ víš,* ☜ 呼びかけ語: +2(聞き手+確実性)

+2(聞き手+確実性);DTho P⁻+M2⁻

（ピーターは、それを全然気にかけていなかった（－んだ－よ）！）

+2(聞き手+確実性):DTho

☜ DTho要素の終助詞およびTrPr要素の様相助動詞の省略可能性は、文イントネーションおよび先行TrPro要素の存在により保障されている。

（注）*1 Poldauf(1966)の 'third syntactical plan' の訳語。

*2 情報価値の観点から、発話文の場合、Rh要素が必須項つまり中心（Ｃ）要素で、（省略可能な）Th要素が選択項つまり周辺（Ｐ）要素と見なされる。Rh要素内においても、２分割が可能で、Th要素に隣接する周辺（Ｐ）Rh要素がTr（移行）要素として設定される。J. FirbasによるTh－Tr－Rh３分割法である。この理論は、A. Svobodaが継承・発展させ、Ｃ要素：DTh(Diatheme)/Tr(Non-Proper)/RhPr(Rh-Proper)とＰ要素：ThPr(Th-Proper)/TrPr(Tr-Proper)

/Rh(Non-Proper)に細分化されることになる。（詳細は、本城1994を参照）

*3 +要素に関しては、筆者は、膠着タイプ形態法の日本語に特徴的な+ 要素の細分化に対応すべく、修正を加え、+1:Th-Rh連結および+2:文脈連結を設定した。

*4 ☜の記号は、付加説明を表わす。以下、それに準拠。

*5 記号はFirbas(1992)に準拠。
ThPr(Thﾌﾟﾛﾊﾞｰ);ThPro(Thﾌﾟﾛﾊﾞｰ指向);Th(ﾃｰﾏ);DTho(DTh指向);DTh(ﾀﾞｲｱTh);
TrPr(Trﾌﾟﾛﾊﾞｰ);TrPro(TrPr指向);Tr(移行/ﾄﾗﾝｼﾞｼｮﾝ);Rh(ﾚｰﾏ);RhPr(Rhﾌﾟﾛﾊﾞｰ)

*6 PNGVATMEは定動詞に固有の文法カテゴリーを示す。細分化が可能で、最終的には$P^-/P^0/P^+$, $T^-/T^0/T^+$, $M^-/M^0/M^+$のカテゴリー体系が設定可能となる。これに加え、法小詞の機能の一種である聞き手指向モダリティを他のモダリティと区別し、M1:客観的・主観的ﾓﾀﾞﾘﾃｨ/M2:話者指向・聞き手指向ﾓﾀﾞﾘﾃｨの２モダリティ体系の付加が筆者により提案された。PNGVE:人称・数・性・態の表示子;ATME:ｱｽﾍﾟｸﾄ・時制・ﾓﾀﾞﾘﾃｨの表示子

*7 ⇒は傾向・接近を、《　》はＦＳＰ基本配列におけるTrPr(o)の領域を示す。

*8 斜字体下線部は、小詞または小詞化要素を指す。以下それに準拠。

*9 大文字は文ストレス付加要素、太字はIC付加要素、を示す。以下それに準拠

４．結論

チェコ語の小詞の形式構造と機能（ＦＳＰ）構造の特徴については、日本語との対照の観点から、次のような観察結果が提出された。

ｉ．４層膠着タイプの日本語（J.)対し、２層総合タイプ＋１層分析タイプのチェコ語の述語定動詞部分には、明示的な提出段階の層（モダリティの層）がなく、分析的に）それを表示することから、専ら主観的モダリティを表示する５つの小詞、つまり（陳述副詞や時制小詞を含む狭義の）法小詞と修正小詞と応答小詞と否定小詞と願望小詞が第３統語面に特徴的な要素と見なされる。これら小詞のＦＳＰ機能は、（一部DThoを除き）すべて+2;TrPr(o)（つまり文脈連結機能）となり、発話内容に対して関与的な固有のカテゴリー的意味としては、評価（M^-）・確実性（P^-）・時間的確実性（T^-性）・聞き手指向性（$M2^-$性）・嗜好（M^+）が支配的である。

ii．強調小詞と焦点（フォーカス）小詞の特徴については、前者が（形容詞・副詞・動詞等の）被修飾要素の概念内容（または属性）を強調する要素であるのに対して、被焦点化要素（つまりRhPr要素）に前接される後者は、述語動詞に固有の文法カテゴリーの一つ、極性カテゴリー（P）を拡充・強化することにより、被焦点化要素（つまりRhPr要素）を強調する点で、大きく異なる。ＦＳＰ機能解釈の観点からは、前者における被修飾要素との一体性（つまり同一ＦＳＰ要素性）、それに後者における極性カテゴリー（P）の拡充・強化（つまりP^+化）という特徴が顕著である。

iii．チェコ語に特有な現象としては、自由与格・呼格や挿入句、それに専ら文頭要素として固定された小詞化要素等による二次的法カテゴリーの発生があげられる。それ

ぞれ、聞き手指向モダリティ（M2⁻）、聞き手指向モダリティに付随した確実性評価“確認訴え”（M2⁻）、それに話者指向モダリティを獲得した評価・確実性・意図“願望訴え”（M2⁺）等である。日本語の対応表現としては、推量助動詞や願望助動詞と“訴え”プロパー要素としての終助詞の連接形式が一般的である。

参考文献：

高見　健一　1995.『機能的構文論による日英比較』（くろしお出版）

本城　二郎　1994.「プラハ言語学派と機能主義言語学：要素と体系のダイナミズム」『言葉と教育』pp.173-187（中部日本出版）

本城　二郎　2000.「現代日本語のＦＳＰ構造」 *Ars linguistica* vol.7

本城　二郎　2001.「話者の言語層とＦＳＰ － チェコ・英・日本語における第３統語面の設定」『ニダバ』No.30.

南　不二男　1993.『現代日本語文法の輪郭』（大修館書店）

DBJG: *A Dictionary of Basic Japanese Grammar*, eds. by S. Makino et al., The Japan Times: Tokyo, 1989.

Dušková, L. et al. 1994. *Mluvnice současné angličtiny na pozadí češtiny (A Grammar of Modern English against the background of Czech)*, Academia: Praha.

ESČ: *Encyklopedický slovník češtiny* (*Encyclopedic Dictionary of Czech*), eds. by P. Karlík et al., NLN:Brno, 2002.

Firbas, J.(1992): *Functional sentence perspective in written and spoken communication*, New York: Cambridge University Press.

Kuno, S.(1987): *Functional Syntax*, Chicago: The University of Chicago Press.

Poldauf, I.(1966): 'The Third Syntactical Plan', *Travaux linguistiques de Prague* 1. Academia: Praha.

PMČ: *Příruční mluvnice češtiny* (*A Handy Grammar of Czech*), eds. by P. Karlík et al., NLN:Brno, 1996.

SČ: *Skladba češtiny* (*Czech Syntax*), eds. by M. Grepl et al., Votobia: Olomouc, 1998.

SESJČ: *Stručný etymologický slovník jazyka českého* (*A Concise Etymological Dictionary of Czech Language*), J. Holub et al., SPN:Praha, 1978.

Svoboda, A. 1989. *Kapitoly z funkční syntaxe (Chapters from Functional Syntax)* SPN: Praha.

VČAS: *Velký česko-anglický slovník* (*Comprehensive Czech-English Dictionary*), eds. by I. Poldauf et al., WD Publications: Čelákovice, 1996.